

北海道ワイン教育研究センターPresents
歴史×空間×体験をデザインする！北大 Next 100Year 創造コンテスト

北海道大学では、学内に眠る未利用資源(もったいないもの)を起点に、キャンパス環境の向上とコミュニティの活性化を同時達成する「持続可能な価値創造エコシステム」構築を目指して様々な「大学の『もったいない』を価値に変えるプロジェクト」を実施しています。

今回、本コンテストでは、150 周年事業の一環として、本学で最も古い建造物でもある、北海道ワイン教育研究センター(以下、ワインセンター)の恒久的な価値向上を目指したイベントを企画・提案するコンテストを実施します。

【コンテストの概要】

1901 年に建築されたワインセンター(旧、札幌農学校昆虫学及び養蚕学教室)には、札幌農学校の時代から育てられてきた樹齢 100 年を超えるユリノキを使ったベンチとテーブルが 150 周年記念事業の一環として順次、設置されます。

この大学の歴史と風土を体現するシンボルと言えるワインセンターを、学生や教職員だけでなく、社会からも長く愛される資産へ昇華を目的として、市民参加型イベントの企画提案を募集します。

- 募集期間:2026 年 7 月 17 日(金)～8 月 21 日(金)
- 審査結果の発表:2026 年 9 月 18 日(金)※予定
- 提案方法:指定のフォーマット(別紙 2)を利用し、応募フォーム(google フォーム)から登録してください。※記入方法と見本は、別紙 1(本資料 4-6 ページ)を参照してください。
- 対象となる方:北海道大学在籍の学生のうち 2026 年 7 月 1 日時点で 20 歳以上の者
応募は、お一人でもチームでも可能です。チームの場合は、1 チーム上限 4 名までとさせていただきます。なお、チームの場合はメンバー全員が、2026 年 7 月 1 日時点で 20 歳以上であること。
- 指定フォーマット(別紙 2)および応募フォーム

<https://cce.grad.hokudai.ac.jp/event/1495>

■ 表彰および賞品

✓ 最優秀賞:1 点

- ◇ 賞品:北海道大学のハルニレ材を使用した特製盾
- ◇ 副賞:めむろワイナリー視察・醸造体験 1 泊 2 日ツアー
※北海道大学限定ワインの醸造委託先

✓ 優秀賞:2 点

- ◇ 賞品:北海道大学のハルニレ材を使用した特製盾
- ◇ 副賞:北海道大学限定ワイン(北海道大学余市果樹園産葡萄を使用/非売品)

【審査の視点(評価基準)】

提案された企画は、主に以下の視点から総合的に審査します。

- 独自性・着眼点：学生ならではの柔軟な発想や、優れた課題設定がなされているか。
- 資源の活用度：ワインセンターとユリノキという歴史的資産の魅力が十分に引き出されているか。
- 実現可能性：予算(5万円以内/イベント事務局から拠出)や運営体制、スケジュールに無理がなく、実行可能か。
- 社会連携・持続性：参加者に良質な体験を提供し、今後の大学と社会の繋がり(コミュニティ形成)に寄与するか。

応募にあたっての注意事項

以下の提案については審査対象から除外いたします。

- 20歳未満や妊婦、運転手の飲酒、また、過剰なアルコール摂取に繋がるような取組(可能性のある取組を含む。)の提案
- 法令違反、第三者への差別・誹謗中傷・プライバシー侵害、著作権や商標権などの知的財産を侵害する提案
- その他、事務局が不適切と判断する提案

【審査員】※順不同

曾根輝雄 北海道ワイン教育研究センター長、国際食資源学院長、北海道大学大学院農学研究院 教授

小澤丈生 北海道大学大学院工学研究院 建築都市部門 特任教授(名誉教授)

加藤 悟 北海道大学サステナビリティ推進機構 教授

阿部眞久 NPO法人ワインクラスター北海道 代表理事/シニアソムリエ

石川直美 石川尚美チーズサロン 代表

主催:教育イノベーション機構

問い合わせ:学務部教育推進課(担当:松山)/ coedu@academic.hokudai.ac.jp

※提案の参考となるウェブサイト

■ユリノキについて

・アボック社「全国のユリノキ植栽調査」

<https://www.aboc.co.jp/company/abocworks/yurinoki2.html>

ページ下部の表中に、北大農学部構内 苗畑と記載あります。

・北海道大学総合博物館「人物紹介(宮部金吾)」

<https://www.museum.hokudai.ac.jp/miyabe/>

ユリノキの種子は、ハーバード大学留学から帰国した際に、アーノルド植物館から持ち帰ったとされています。

・青柳庵日記「ユリノキの伐採」2017年5月16日

<http://blog.sapporo-ryu.com/?eid=1863>

・青柳庵日記「笠 康三郎の 続・さっぽろ植物記 その7 ユリノキ」2024年2月18日

<http://blog.sapporo-ryu.com/?eid=4344>

本学の造園に関わりの深い笠氏の個人のブログです。今回のユリノキが伐採された時期や様子が分かります。

■ベンチについて

・いいね！Hokudai「シリーズ『アノベンチ』」

https://costep.open-ed.hokudai.ac.jp/like_hokudai/article/36534

ベンチプロジェクトの経過やイベントの報告が掲載されています

■北海道ワイン教育研究センターについて

・リサーチタイムズ「札幌キャンパスの歴史的建造物が北海道大学ワイン教育研究センターとして再生」

<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/2023/10/post-96.html>

・リサーチタイムズ「歴史的建造物のある景観を守る ～旧昆虫学及養蚕学教室をワイン教育研究センターに保存改修」

<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/2024/05/content-16.html>

・リサーチタイムズ「歴史的建造物で北海道産ワインを味わう ～北海道ワイン教育研究センター棟が一般開放」

<https://www.hokudai.ac.jp/researchtimes/2024/09/post-119.html>

・NPO 法人ワインクラスター北海道「ウィークエンド よりみちワイントーク」

<https://winecluster.org/archives/12657/>

北海道ワイン教育研究センターで、ほぼ毎週行われるイベント情報です。

(別紙 1)

【記載項目および作成のポイント】

本コンテストでは、以下の項目について企画提案書を作成してください。フォーマット(指定の Word)2枚以内で、あなた(またはチーム)のアイデアを具体的に表現してください。次ページの記載例も参考にしてください。

1. 企画タイトルとテーマ

一目でイベントの魅力や内容が伝わる、キャッチーなタイトルをつけてください。

2. 企画の概要と意図(なぜこの企画をやるのか)

イベントの全体像と、この企画を通じて何を成し遂げたいのか(企画の背景・意図)を分かりやすく説明してください。

3. ターゲット層と想定参加人数

「誰に」参加してほしいイベントですか? 「市民一般」ではなく、「歴史に興味があるシニア層(20 名)」など、具体的に想定してください。

4. 参加者に投げかける「問い」と提供する体験価値

単に「楽しかった」で終わるのではなく、参加者がイベントを通じてどのような新しい気づきを得たり、考えを深めたりできるかを記載してください。

5. ワインセンターとユリノキの価値の表現

ワインセンターと、100 年を超えるユリノキのベンチ・テーブルのどのような点を価値と感じ、それをどのように表現したのか」をアピールしてください。

6. イベント後の波及効果(持続的な価値向上)

イベント終了後、ワインセンターや地域コミュニティにどのような良い変化(価値)が残ると考えますか? 一過性のお祭りで終わらせないための工夫を記載してください。

7. 運営体制とスケジュール案

企画を誰がどのように実行するのか、チームの体制とイベント実施日までの大まかな準備スケジュールを示してください。

8. 予算計画(実施経費:5 万円以内/イベント事務局から拠出)

限られた予算を、どのように有効活用するかを示してください。概算で構いません。

【企画提案書 記載例】

1. 企画タイトルとテーマ

ユリノキの暗号：宮部金吾と北大の歴史を紐解くミステリーナイト
(テーマ：歴史体験 × 謎解きを通じた多世代交流)

2. 企画の概要と意図(なぜこの企画をやるのか)

夕暮れ時のワインセンターを舞台にした、少人数制の謎解きイベントです。参加者は「宮部金吾が 100 年後の北大生に残したメッセージ」を探る探偵となり、センター周辺に隠されたヒントを集めます。謎解きという「体験」を通じて、北大の歴史やキャンパスの自然に主体的に興味を持ってもらうことを意図しています。

3. ターゲット層と想定参加人数

ターゲット：歴史や謎解きに興味のある札幌市民(大人)と、北大生。年代の異なるメンバーで 1 チーム(4 名)を構成し、交流を促します。想定参加人数：計 20 名(5 チーム)

4. 参加者に提供する体験価値

謎解きの達成感に加え、学生と市民がユリノキのテーブルを囲んで対話することで生まれる「世代を超えたコミュニケーション」と「歴史への共感」を提供します。

5. 「ワインセンター」と「ユリノキ」の価値の表現

旧昆虫学及び養蚕学教室であるワインセンターのレトロで重厚な外観は、ミステリー(謎解き)の非日常的な舞台として最適です。

また、ユリノキのテーブルを単なる「休憩スペース」ではなく、「最後の謎を解くための重要な拠点(作戦会議の場)」として位置づけます。木目や樹齢といったユリノキの背景そのものを謎解きのストーリーに組み込むことで、この場所・この家具でしか成立しないイベントにします。

6. イベント後の波及効果(持続的な価値向上)

イベントで使用した「謎解きキット」を、イベント終了後もワインセンターのパンフレット置き場等に常設(無料配布)します。これにより、日常的に訪れる見学者もいつでも個人的に謎解きを楽しめるようになり、センターの恒久的な魅力向上に繋がります。

7. 運営体制とスケジュール案

運営体制：提案者(自分)と北大公認サークル「〇〇会」のメンバー 3 人の合同チーム(計 4 名)で運営。

スケジュール：

開催 1 ヶ月前：謎解き問題の作成、現地ロケハン

開催 3 週間前：SNS およびポスターでの集客開始

開催 1 週間前：キット印刷、備品買い出し

イベント当日：夕方 17:00～19:00 にて実施

8. 予算計画(実施経費:上限 5 万円)

合計:43,000 円

- 広報費・印刷代(10,000 円): 集客用ポスター、当日配布用謎解きキット・マップの印刷代
- 参加者景品代(13,000 円): 謎解きクリアの景品(北大ゆかりのクッキーなど)
- 保険・雑費(10,000 円): イベント保険加入料、クリップボードや筆記用具など
- 懇親会費(10,000): イベント終了時に、参加者同士の交流で提供するワイン代など